

市民活動状況

市内NPO法人数 31 団体
 当センター登録団体数 122 団体
 当センター登録会員数 6,559人
 4月来館者数 1,858人
 4月印刷機利用枚数 35,081枚

ひびき



発行枚数 650枚 メール配信 100団体

発行人 指定管理者NPO法人茨城県南生活者ネット 龍ヶ崎市市民活動センター長 田沼信之

龍ヶ崎市市民活動センターは社会貢献活動を行う団体を支援するための施設です。
 会議スペース・作業スペース・印刷機・紙折り機・パソコン・多目的室等(1階)や大会議室・
 小会議室・パソコン室・和室・工作室(2階)・陶芸室(1階外倉庫隣り)がご利用いただけます。
 開館時間 = 午前9時～午後7時(日曜祝日は午後5時まで)2階各室は夜間も(午後10時まで)利用可能です。
 休館日 = 月曜日および年末年始
 〒301-0004 龍ヶ崎市馴馬町2445 TEL 0297-63-0030 / FAX 0297-63-0571
 E-mail r-suwan@titan.ocn.ne.jp URL http://r-shimin.sakura.ne.jp/

今月のトップニュース

センター長の「目指せ！市民活動日本一」その55

地域円卓会議「市民活動日本一を目指す会」がスタート

ふるさと龍ヶ崎戦略プランの重点目標「市民活動日本一」をより力強く推進する組織となりました。

メンバーは

- ①市議会議員で市民活動センターへの訪問等、市民活動へのご理解が深い深澤幸子氏と糸賀淳氏
- ②市民協働課からは櫻井課長補佐
- ③市民活動団体からはNPO駅前コムハウス松原卓朗会長、NPO茨城県南生活者ネット近藤典明代表、NPO法人バイオライフ塩川富士夫代表、NPO法人龍ヶ崎の価値ある建造物を保存する市民の会 前田享史代表
- ④世話人は市民活動センター長田沼信之、上田伸太郎、松本久美子です。



第1回の主な議題は

- ・調査団を結成し県の中核「交流サロウン茨城」を視察訪問し、龍ヶ崎で何が日本一になりうる目標かを調査・研究する。
 - ・つくば市民活動センターと合同発起人として、常磐線沿線の市民活動センター交流会(想定10施設)を開催計画する。第1回の会場は龍ヶ崎市市民活動センター。
 - ・龍ヶ崎の市民塾「未来講座(松原会長主宰)」の計画と参加要請
 - ・ダンボール機関車の新宿パークタワー展示計画
 - ・旧 竹内農場西洋館イベント紹介(鈴木久先生、ドローン映像制作紹介)
 - ・地域おこし協力隊の活動報告
 - ・子供科学クラブの活動紹介(ラジオ製作)
 - ・外国人観光客の民泊状況
 - ・グリーン・ツーリズム研究会(筑波大准教授による空き家活用事例の紹介)計画
- など内容は盛りだくさんでした。まずは活動の実際を参加者間で共有することからスタート。体制構築の考え方をインターネットライブ放送で公開しました。龍ヶ崎市市民活動センターホームページをご覧ください。



市民活動政策立案集団「達人会」の開催

NPO法人茨城県南生活者ネットの活動拠点、馴染みコムの道路の反対側の黄色い建物「コムハウス」で、毎月最終木曜日の5時からのもんべえ集団による市民活動の、水平展開ならぬ酔平展開を楽しんでいます。メンバーは、NPO代表、一級建築士、工学博士、特許管理士、元画商、相撲甚句会会長、元長寿会会長、元皇宮警察官、工芸職人、おたすけ隊代表、地域おこし支援隊、市民活動センタースタッフ。…東大卒もいます。

誰でも参加できます。参加費は1,500円/1回

申し込み:世話人(センター長)まで ☎63-0030



第3回 グリーン・ツーリズム研究会(勉強会&交流会)の開催

グリーン・ツーリズムとは都市の住民が余暇を利用して農村部の自然・文化に触れ、人々との交流や農作業の体験などを通して楽しむ滞在型の余暇活動です。今回は筑波大学システム情報系社会工学域准教授山本幸子氏を講師に迎え、空き民家を活用したゲストハウスやカフェ・スペースなどの事例紹介と、龍ヶ崎市における空き民家活用の可能性を議論しました。仲間募集中。

申し込み:龍ヶ崎グリーン・ツーリズム推進協議会事務局 NPO法人バイオライフ 塩川代表 (080-3065-0783)まで



まいりゅう小中学生科学クラブ

7月は電波とラジオ受信機の基礎知識の習得とラジオの製作でした。生徒さんは約30名。NHKの電波が受信できたことを確認しました。終了後は野外でソーラークッキング。太陽光で焼いた熱々のトウモロコシをいただき、楽しい一日を体験しました。



講演会「3万年前の航海徹底再現プロジェクト」

つくば市民活動センター運営の指定管理者/NPO法人 スマイル・ステーションが主催した楽々大学講演会「日本人はどこから来たのか」に参加しました。

講師は最近つくばに転居した国立科学博物館・人類研究部の理学博士・海部陽介氏。3万年以上前に海を越えてやってきた祖先の謎を立証するため、舟を復元し、仲間とともに実験航海に挑戦したという。草舟を製作し与那国から西表島をめざした昨年度の話でご存じの方も多いのでは？

活動資金は知る人ぞ知る「クラウドファンディング」で、なんと2638万円を獲得！結果は、残念ながら、海流に流され途中断念でしたが、再挑戦を期して、募金活動を再開するという。今度は竹舟で。市民活動の喝采だと思ふ。

市民活動センターからのお知らせ

☆「市民活動応援市」9月9日(土)開催します。(雨天10日)

☆9月19日(火)シニアボランティア体験(公園清掃)。参加者募集。活動センターまで。

龍ヶ崎短歌会

校門に下校児を待つ間うぐいすの初音木の間に一声聞こゆ
秋よりも新緑好みし亡き夫に楓の若葉瓶に差しやる

糸賀 浩子
中村 雅彦